

令和7年度授業改善プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だて)の授業に関して作成する。
 - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
 - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
 - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

9

教科名(数学) 教科主任名 山下 拓也

★9月1日(月)までに入力してください。

★教科・観点について

学力向上のための調査・期末テストと学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。<○成果 ▲課題>

観点	前半～9月			後半～1月			次年度に向けて	
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	まとめ	
知識・技能	1年	○1学期の期末考査では、知識・技能の問題正答率が73%のため、基礎的な内容が定着できている。 ▲分数の計算や、計算の順番を正しく把握して解くことができるでいる生徒が多い。	夏休み明けのテストで、忘れている内容を把握し、授業時に補填すること。授業時に小学校時の既習事項を確認しながら授業を展開する。	1年				
	2年	○授業アンケート「説明ははっきりしていて分かりやすい」では91.6%よく当てはまり、多項式の計算の小テストでは正答率70.8%と基礎の解き方が定着できている。	夏休みの宿題でスタディサプリや問題集を活用して計算の反復演習を行い、夏休み明け始めの授業で小テストを実施してさらなる定着を図る。	2年				
	3年	○1学期の成績では計算などの基本的な内容が身に付いているA評価の生徒が約半数いる。 ▲身に付いていない生徒は都立入試の大問Ⅰを活用する。	夏休みに計算が苦手な生徒を対象に、補充教室を行い、基礎基本に絞った補充をする。また、授業中も机間指導を個別に行う。	3年				
思考・判断・表現	1年	▲1学期の期末考査では、思考・判断・表現の問題正答率が47.5%と苦手意識を持っている生徒が多くみられる。	問題文を正確に読み取ることや、立式することを重点的に授業で扱い、知識・技能を活用するよう展開する。	1年				
	2年	▲1学期期末考査では観点別平均で47.6%と解ける生徒と解けない生徒の2極化の傾向が見られた。	習熟度別少人数制から各コース内で生徒の考えを共有する場面を増やす。類題を授業内で解かせるなどで身に付けさせる。	2年				
	3年	○知識・技能を活用しなくてはいけない問題に対しても過半数の生徒が取り組むことができた。 ▲授業でも知識・技能を活用する問題に取り組む際に、粘り強く取り組むことが難しい生徒も習熟度によってはいる。	生徒の習熟度等の実態に合わせて、適切な問題を提示して授業を展開する。	3年				
主体的に学習に取り組む態度	1年	○授業時に発言しようとする意欲や、近くの生徒と話しあうことなど、意欲的な姿が見られる。 ▲提出物を遅れて出す生徒がいるため、提出の定着ができない。	授業時に、問題を早く解き終わった生徒へ、ワークをするよう指示することや、提出物の期限近くには、授業時に声掛けを行うなどをする。	1年				
	2年	○授業アンケート「授業が分かりやすくなる(または技術が向上する)ような工夫をしている」では81.5%よく当てはまり、定期的な小テスト実施ができるている。小テスト後には反復して解き直し、期末考査では良い結果につながった。	習熟度別少人数制でコース別でも教員間で授業進度を共有して差が出ないように工夫している。校内の教科掲示板でテストに関する情報を提示して生徒が自主的に情報を得る習慣を身につけさせる。	2年				
	3年	○課題に対して、自身の興味ある内容を深めて振り返りをする生徒もいる。 ▲間違えた問題に対して、なぜを問い合わせながら直しをする生徒が少ない。	日々の授業や、テスト明けなどに間違い直しを丁寧にする大切さを指導する。	3年				